

国語「国語総合」

単位数	3	学科・学年	機械土木工学科 1年	教科書 副教材等	改訂版標準国語総合（第一） 改訂版標準国語総合学習課題集（第一） 常用漢字オールクリア四訂版（尚文出版）
-----	---	-------	---------------	-------------	--

学習目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を養い、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。
------	---

学期	学習内容	学習のねらい
1	「スイッチを OFF にすることから始める」 「兄のそら寝」 「とんかつ」 「訓読に親しむ」 「五十歩百歩」 「スピーチをする」	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の構成、展開に注目し、筆者の主張を把握する。</li> <li>古典を読む楽しさに触れる。</li> <li>話の展開を理解する。</li> <li>物語の展開を理解する。</li> <li>登場人物の思いや人物像をとらえる。</li> <li>繰り返し音読し、漢文の読み方について理解する。</li> <li>発言の意図を考える。</li> <li>スピーチの方法を身につける。</li> </ul>
2	「道程」「二十億光年の孤独」 「なよ竹のかぐや姫」 「水の東西」 「静夜思」「春望」 「資料に基づいて説明する」	<ul style="list-style-type: none"> <li>詩独特のリズムを理解する。</li> <li>詩人の発想・着想を理解する。</li> <li>古文に親しむ。</li> <li>登場人物の行動や心情をとらえる。</li> <li>二つの水の姿を捉え、文化の違いについて考えを深める。</li> <li>日本人に大きな影響を与えた唐代の詩人や詩の形式を理解する。</li> <li>効果的な説明の仕方の基本を理解する。</li> </ul>
3	「羅生門」 「ある人、弓射ることを習ふに」 「神無月のころ」 「説明文を書く」	<ul style="list-style-type: none"> <li>下人の心理の変化を理解する。</li> <li>この小説における作者の主張を理解する。</li> <li>筆者のものの感じ方をとらえ、味わう。</li> <li>わかりやすく、説得力のある文になるよう工夫する。</li> </ul>
評価の観点		内 容
関心・意欲・態度		・国語を伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしたか。
話す・聞く能力		・目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めているか。
書く能力		・相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているか。
読む能力		・文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているか。
知識・理解		・伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているか。
評価方法	・伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているか。	

学習に対するアドバイスと留意事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 毎時間の授業を大切に、積極的に挙手をして発表しましょう。</li> <li>○ 教科書をよく読み、漢字や語句の意味を調べておくようにしましょう。</li> <li>○ 板書された事項以外にも大切なことは書き留め、自分が分かるノート作りを心がけましょう。</li> <li>○ 進んで読書をする習慣を身に付けましょう。</li> <li>○ 漢字は地道に覚え、漢字テストにも積極的に取り組みましょう。</li> </ul>

地理歴史「世界史A」

単位数	2	学科・学年	機械土木工学科 1年	教科書 副教材等	明解 世界史A (帝国書院) 明解 世界史Aノート (帝国書院)
-----	---	-------	---------------	-------------	-------------------------------------

学習目標	現代世界の形成の歴史的過程について、近代史を中心に理解させ、世界諸国相互の関連を多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
------	--

学期	学習内容	学習のねらい
1	第1部 世界の一体化と日本 第1章 前近代の諸文明 第2章 一体化に向かう世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人類の登場と、農耕・牧畜による食料生産を基礎にして人類が文明を築き歴史時代へ入っていくありさまを地域ごとに概観し、各地域世界が形づくられていく過程を理解する。</li> <li>・各地域の風土と諸民族、各地域世界の特質を理解する。</li> </ul>
2	第3章 欧米の工業化とアジア諸国の動揺 第2部 地球社会と日本 第1章 現代社会の芽生えと世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルネサンスと宗教改革、新航路の開拓、主権国家体制の成立などに触れ、16世紀の世界の一体化への動きと新たなヨーロッパの枠組みとなった主権国家体制について理解する。</li> <li>・第一次・第二次世界大戦と総力戦としての様相、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、戦争と革命による国際秩序の変化、アメリカの大衆生活とその波及を通して、二つの世界大戦が20世紀に与えた様相を理解する。</li> </ul>
3	第2章 冷戦から地球社会へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界恐慌が国際秩序に危機をもたらし、新たな国際対立を生み出したことや、ナチズムなど全体主義と大衆化現象との関連、日本の動向と世界の動きを理解する。</li> <li>・第二次世界大戦の経過や性格、その被害から平和の確立が大切だと理解する。</li> </ul>

評価の観点	内容
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動に積極的に参加しているか。</li> <li>・世界の歴史に関心を持ち、意欲的にそれらを探究する態度を身に付けているか。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題意識を持って、歴史的事象、人類の課題を意欲的に思考・判断し、追究しようとしているか。</li> </ul>
資料活用の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の歴史に関する資料を収集・活用し、考察した結果を適切に表現しているか。</li> </ul>
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の歴史についての基礎的知識が定着しているか。</li> <li>・各世界の特質を理解しているか。</li> </ul>
評価方法	学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「資料活用の技能」、「知識・理解」の四つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取組」、「提出物(ノート)」、「定期考査」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の相加平均とし、5段階法でも評定を行います。

学習に対するアドバイスと留意事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業で使用するノートには、作業欄もあります。毎時、確実に記入しましょう。</li> <li>○ 質問をよく聞き、積極的に挙手・発表をしてください。</li> <li>○ 定期考査前には、復習プリントをもう一度確認すると良い結果につながります。</li> <li>○ 世界情勢に関心を持ち、ニュースや新聞で世界の動向を把握するよう心掛けましょう。</li> </ul>

数学「数学 I」

単位数	4	学科・学年	機械土木工学科 1年	教科書 副教材等	改訂版 新編 数学 I (数研出版) 改訂版 Study-upノート数学 I (数研出版)
-----	---	-------	---------------	-------------	--

学習目標	数と式、集合と命題、2次関数、図形と計量及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
------	---

学期	学習内容	学習のねらい
1	第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用	<ul style="list-style-type: none"> <li>式を多面的にみたり処理したりするとともに、数を実数まで拡張する意義を理解できるようにする。</li> <li>三角比の意味やその基本的な性質を理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。</li> </ul>
2	第1章 数と式 第3節 1次不等式 第2章 集合と命題 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>一次不等式を事象の考察に活用できるようにする。</li> <li>集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。</li> <li>2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。</li> </ul>
3	第2章 2次関数 第3節 2次方程式と2次不等式 第4章 データの分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。</li> </ul>

評価の観点	内容
関心・意欲・態度	・授業を通して数学的な見方や考え方に関心を持ち、積極的にまじめな態度で授業に参加することができたか。
数学的な見方や考え方	・基本的な内容を理解し、数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えることができたか。
数学的な技能	・数学的に考察し、表現・処理する方法を身に付け、的確に問題を解決することができたか。
知識・理解	・基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けることができたか。
評価方法	学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「数学的な見方や考え方」、「数学的な技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出（レポートやノート）」、により評価します。また、学年の成績は上記の観点から評価した各学期の成績の相加平均とし、5段階法でも評定します。

学習に対するアドバイスと留意事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業は必要に応じ、板書します。板書しなかったことも意欲的に、ノートにとってください。</li> <li>○ 演習プリント等はノートに貼り付けてください。</li> <li>○ 先生の話をよく聞き、積極的に挙手・発表をしてください。</li> <li>○ 定期考査前には授業で解いた問題をもう一度解くとよい結果につながります。</li> <li>○ エスタブリッシュメントテストは、一回一回、真剣な姿勢で取り組んでください</li> </ul>

理科「科学と人間生活」

単位数	2	学科・学年	機械土木工学科 1年	教科書 副教材等	新 科学と人間生活（数研）
-----	---	-------	---------------	-------------	---------------

学習目標	日常生活や社会との関連性を図りながら、身近な物質とその変化への関心を高め、見通しをもって主体的に観察、実験などを行い、科学的に探求する能力を育てるとともに、自然の事物・現象の基本的な原理・法則を理解させる。
------	---

学期	学習内容	学習のねらい
1	2編 光や熱の科学 2章 光の性質とその利用  1章 熱の性質とその利用	・光の波や粒子としての性質について理解させ、作図などで考え方を説明できるようにする。  ・熱に関する性質と熱とエネルギーとの関係を物理式を用いて説明できるようにする。
2	1編 物質の科学  1章 金属、プラスチックとその利用  3編 生命の科学  1章 生物と光	・プラスチックを構成する原子や分子の性質や結合の種類について理解し、金属やプラスチックの種類について、実験を通して科学的思考力を身に付ける。  ・植物の生育と光のかかわりについて理解する。
3	4編 地球や宇宙の科学  1章 自然景観と自然災害	・地形の成り立ちやプレートテクトニクスなどの概念を理解し、自然災害が人間生活に与える被害や対策など、必要な知識を身につけ、行動力を養う。

評価の観点	内 容
関心・意欲・態度	・身近な事物・現象に関心や探究心をもち、科学的な視点・考察力を養うとともに、科学技術に対する関心を高める態度を身に付けているか。
思考・判断・表現	・身近な事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験、調査などを行うとともに、これからの科学と人間生活とのかかわり方について科学的・論理的に思考できるか。
観察・実験の技能	・身近な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付け、観察、実験の過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現できるか。
知識・理解	・科学技術の発展の人間生活への貢献、身近な事物・現象を通しての現代の人間生活と科学技術の関連性についての知識を身につけ、これからの科学技術と人間生活のあり方について理解したか。
評価方法	・定期考査 ・授業中の諸活動（小テスト、実験（取組、レポート）、発表、授業プリント、課題） ・学年の成績は上記の観点から評価した各学期の成績の相加平均とし、5段階でも評価します。

学習に対するアドバイスと留意事項
<p>授業の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中学校に比べると、内容が多くなり、進度も速くなるので、集中して授業に取り組みましょう。</li> <li>○ 現象や事象の原理まで掘り下げた内容を学習するので、内容は難しくなります。分からない場合は、積極的に先生に質問し、理解できるよう努めましょう。</li> <li>○ 小テストを行うので、特に復習を十分にいきましょう。</li> </ul> <p>家庭学習（予習・復習）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 週に2時間しか授業がないので、前時の復習をしっかりと行い、既習事項の理解・確認に努めましょう。授業で行った練習問題やプリント等を利用して、しっかりと復習しましょう。</li> </ul>

保健体育「体育」

単位数	2	学科・学年	機械土木工学科 1年	教科書 副教材等	最新高等保健体育改訂版（大修館） アクティブスポーツ [総合版]（大修館）
-----	---	-------	---------------	-------------	--

学習目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動の技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
------	---

学期	学習内容	学習のねらい
1	1 体育の学習について 2 集団行動 3 体づくり運動 4 球技選択 5 武道 6 体育理論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「体育」学習の意義や内容、評価の方法を理解する。</li> <li>・集団行動の意義や行い方を理解する。</li> <li>・体ほぐしの運動をする。自分の体力の実態を知るために体力テストをする。</li> <li>・練習やゲームを通して、運動の技能や体力を高め、公正・協力・責任などの態度を培う。</li> <li>・武道にふれあう機会を通して、武道に関する理解と総合的な体力を高める。</li> <li>・基礎的な知識は、意欲、思考力、運動の技能などの源となるものであり、確実な定着を図る。</li> </ul>
2	1 集団行動 2 体づくり運動 3 球技選択 4 武道 5 陸上競技(長距離走)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育祭での集団演技を規律よくできるようにする。</li> <li>・体力を高める運動をする。</li> <li>・自己に適したペースで走ることができるようにする。自己記録が更新できるようにする。</li> </ul>
3	1 体づくり運動 2 球技選択 3 体育理論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力を高める運動をする。</li> <li>・基礎的な知識は、意欲、思考力、運動の技能などの源となるものであり、確実な定着を図る。</li> </ul>
評価の観点		内 容
関心・意欲・態度		運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるように自ら進んで運動をしようとする。また、公正・協力・責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して運動をしようとする。
思考・判断		自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。
運動の技能		自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。
知識・理解		社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	「関心・意欲・態度」「思考・判断」「運動の技能」「知識・理解」の4観点で総合的に評価します。	

学習に対するアドバイスと留意事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 積極的に活動に取り組んで運動の技能や体力を高め、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てること。</li> <li>○ 体育の授業では、「敏速正確な集合」「清潔端正な服装」「礼儀作法の重視」「用具の整理整頓」「体力の増強」を心掛けること。</li> </ul>

保健体育「保健」

単位数	1	学科・学年	機械土木工学科 1年	教科書 副教材等	最新高等保健体育改訂版（大修館） 最新高等保健体育ノート改訂版（大修館）
-----	---	-------	---------------	-------------	---

学習目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。
------	--

学期	学習内容	学習のねらい
1	1 健康の考え方と成り立ち 2 私たちの健康のすがた 3 健康に関する意志決定・行動選択と環境づくり 4 生活習慣病とその予防 5 食事と健康 6 運動・休養と健康 7 喫煙と健康 8 飲酒と健康 9 薬物乱用と健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康の考え方を学び、自分の健康観を持つ。</li> <li>健康にかかわる要因、ヘルスプロモーションの理念、様々な保健活動、日本の健康水準や健康問題について理解する。</li> <li>生活習慣病を予防するための方策を理解する。</li> <li>健康に生きるための食事・運動・休養のとり方について理解する。</li> <li>喫煙・飲酒・薬物乱用に対する現状と対策について理解する。</li> </ul>
2	1 感染症とその予防 2 性感染症・エイズとその予防 3 欲求と適応機制 4 心身の相関とストレス 5 心の健康のために	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在問題となっている感染症について理解し、性感染症・エイズの予防のための知識を得る。</li> <li>欲求と適応機制について理解する。</li> <li>心身相関やストレスについて説明できる。</li> <li>健康な心を維持するための生活を考える。</li> </ul>
3	1 交通事故の現状と要因 2 交通事故を防ぐために 3 応急手当の意義とその基本 4 日常的な応急手当 5 心肺蘇生法の原理とおこない方	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通事故の特徴や関係する要因を理解する。</li> <li>交通事故を防ぐための方策について理解する。</li> <li>応急手当の意義、心肺蘇生法の原理や手順、日常的な応急手当の方法を理解し、実行できる。</li> <li>単元の中からテーマを選び、調べ学習を行い、レポート提出や発表することができる。</li> </ul>

評価の観点	内 容
関心・意欲・態度	個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践するため、意欲的に学習に取り組もうとする。
思考・判断	個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に思考し、総合的にとらえることにより、適切な意思決定を行い、選択すべき行動を適切に判断している。
知識・理解	健康・安全の意義を理解するとともに、現代社会と健康、生涯を通じる健康及び社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	「関心・意欲・態度」「思考・判断」「知識・理解」の3観点から評価します。定期考査・授業の観察・保健ノートや課題の提出・発表などを通じて評価します。

学習に対するアドバイスと留意事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業は必要に応じて板書するので、保健ノートに丁寧に整理をして書いていくこと。</li> <li>○ 先生の話をよく聞き、身近な日常生活と結び付けて考えていくと理解しやすい。</li> <li>○ 図説を大切にし、学習の内容を確認するために保健ノートの問題を解いていくこと。</li> </ul>

芸術「美術Ⅰ」

単位数	2	学科・学年	機械土木工学科 1年	教科書 副教材等	高校生の美術1（日文）
-----	---	-------	---------------	-------------	-------------

学習目標	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。
------	--

学期	学習内容	学習のねらい
1	〈オリエンテーション(年間計画の説明)〉 〈紙で作る折りたたみ立体の制作〉 1 ガラス棒を使った溝引きの学習 2 色彩学習と着彩 3 製図と組み立て 4 相互鑑賞	・美術を学習する心構えをする。 ・道具の正しい扱い方を学び、正確、丁寧、スピーディーな作業を行う。 ・鑑賞の態度を養う。
2	〈紙飛行機の制作〉 1 紙の特性の理解 2 説明と参考作品 3 切り抜き、接着による組み立て 4 仕上げ、調整 5 試験飛行と本飛行、タイム測定	・作業手順の確認と、正確な制作が結果（飛行時間）につながることを理解する。 ・立体をイメージしながらアイディアスケッチをし、平面から立体作品へとスムーズに移行できるようにする。
3	〈かまぼこ板を使ったゴム銃の製作〉 1 説明と参考作品 2 アイディアスケッチ 3 制作、相互鑑賞 4 調整と射的競技 〈鑑賞〉 1 作家の人生と作風 (東洲斎写楽)(オーギュスト・ルノアール)	・イメージを膨らませながらアイディアスケッチをし、デザインと物とのかかわりを理解する。 ・鑑賞の態度を養う。

評価の観点	内容
美術への 関心・意欲・態度	・美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。
発想や構想の能力	・感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。
創造的な技能	・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫して表している。
鑑賞の能力	・美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	四つの観点から評価した第1学期の成績、第2学期の成績及び第3学期の成績を総合し、年間の学習成績とします。年間の授業に対する取り組みや鑑賞態度、夏季・冬季休業中の課題も評価に含まれます。

学習に対するアドバイスと留意事項
○ 美術Ⅰの学習では、基礎的なものの見方、表現方法について学びます。意欲的に制作に取り組むことにより、自分の良さを発見し、美的センスを磨き、表現する楽しさや、完成の喜びを味わってください。 ○ 絵具道具やスケッチブック、作品等を大切に扱い、提出物は期限を厳守してください。

英語科「コミュニケーション英語Ⅰ」

単位数	3	学科・学年	機械土木 工学科・1年	教科教 書副材等	VISTA English Communication I New Edition (三省堂)
-----	---	-------	----------------	-------------	---

学習目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。
------	--

学期	学習内容	学習のねらい
1	Lesson 1 Kerama Blue	・be動詞と一般動詞を理解する。
	Lesson 2 Cool Japan	・疑問文・現在進行形を理解する。
	Lesson 3 Mexican Dishes	・助動詞・過去形を理解する。
	Lesson 4 The Olympics	・第三、第四、第五文型を理解する。
	Lesson 5 Baobabs in Madagascar	・不定詞を理解する。
2	Lesson 6 Toothbrushing in Edo	・動名詞を理解する。
	Lesson 7 Machu Picchu	・現在完了形を理解する。
	Lesson 8 Motala and Landmines	・受け身を理解する。
	Lesson 9 Dick Bruna	・関係代名詞を理解する。
3	Lesson 10 Tsuji, the Great Pianist	・関係副詞・形式主語を理解する。
	Lesson 11 Ideas from Nature	・分詞構文を理解する。
	Lesson 12 Steve Jobs	・仮定法過去を理解する。
評価の観点	内 容	
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしているか。	
外国語表現の能力	外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えようとしているか。	
外国語理解の能力	外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解しているか。	
言語や文化への知識・理解	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解しているか。	
評価方法	定期考査、平常の学習活動・学習態度、ノート・課題などの提出状況、小テスト、出席状況などにより総合的に評価する。	

学習に対するアドバイスと留意事項
○授業には、本文をノートに書き写す、単語を調べるなど予習をして臨むこと。 ○本文を繰り返し読み、確実に読めるようにすること。 ○ノートをきちんと取ること。 ○単語は地道に覚えよう。単語テストにも積極的に取り組むこと。



家庭「家庭総合」

単位数	2	学科・学年	機械土木工学科 1年	教科書 副教材等	家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍) 家庭科ノート (愛媛県高等学校家庭科教育研究会) 調理実習ノート (愛媛県高等学校家庭科教育研究会)
-----	---	-------	---------------	-------------	---

学習目標	家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中からとらえ、人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する知識と技術を総合的に習得し、生活する上での様々な課題を解決するために、家庭生活の充実向上を図る力と実践的な態度を身に付ける
------	---

学期	学習内容	学習のねらい
1	家庭科の学び方 1 自分らしい人生をつくる ・青年期の課題 ・人生をつくる ・家族・家庭を見つめる 2 衣生活をつくる ・被服の役割を考える ・被服を管理する ・被服を作る 実習 基礎縫い  ホームプロジェクトの進め方について	<ul style="list-style-type: none"> <li>「家庭総合」を学ぶにあたって、学習の意義や学習方法、評価の方法を理解する。</li> <li>今の自分を客観的に見つけ、職業選択や家族のあり方について考える。</li> <li>家族・家庭に関する基礎的な法律を学習し、現在の動きを知る。</li> <li>被服の役割や機能を理解し、TPOに応じて健康的で快適な着装ができるようにする。</li> <li>被服に適した選択や保管方法を知る。</li> <li>実習を通して、基礎的な縫製技術を身に付ける。</li> <li>自分の家庭生活の中から課題を見つけ出し、その解決に向けて実践出来るようにする。</li> </ul>
2	2 衣生活をつくる ・実習 エプロン製作 ・これからの衣生活 3 食生活をつくる ・食生活について考える ・食事と栄養・食品 ・実習 菓子 (小麦粉・砂糖・卵の性質)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分に合った被服の製作ができる。</li> <li>生涯を通じて健康で安全な衣生活が営めるようになる。</li> <li>高校生の食生活の現状から、これからの食生活のあり方について考える。</li> <li>日常的な食品の栄養的特質や調理上の性質について科学的に理解する。</li> </ul>
3	3 食生活をつくる ・食生活の安全と衛生 ・調理の基礎 ・実習 スピード献立 (和・洋・中) ・これからの食生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品の選択や調理の際の安全に関する事項を学ぶ。</li> <li>食生活の自立に必要な調理技術を身に付ける。</li> <li>生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるようにする。</li> </ul>

評価の観点	内 容
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族や家庭生活に関心を持ち、意欲的に授業に参加しているか。</li> <li>家庭生活向上のために意欲的に取り組む姿勢があるか。</li> <li>学んだ事を生かそうとする実践的な態度を身に付けようとしているか。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習したことを自分の家庭生活にかかわらせて考えることができているか。</li> <li>体験的な学習や生活の中で課題を見つけ、その解決に向けて改善策を考えられるか。</li> <li>家庭生活の充実向上を目指して、自分の考えをまとめ、意見交換ができるか。</li> </ul>
技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>被服製作に必要な基本的技術を身に付けているか。</li> </ul>
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭生活の意義や役割を理解しているか。</li> <li>生活を営む主体者として、家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けているか。</li> </ul>
評価方法	学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の四つの観点で評価します。具体的には、「授業態度・取組」「提出物 (学習の記録・感想)」、「作品」、「小テスト」、「定期考査」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とします。

学習に対するアドバイスと留意事項
○ 学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の四つの観点で評価します。具体的には、「授業態度・取組」「提出物 (学習の記録・感想)」、「作品」、「小テスト」、「定期考査」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とします。

機械土木工学科「工業技術基礎」

単位数	2	学科・学年	機械土木工学科 1年	教科書 副教材等	工業技術基礎（実教出版）
-----	---	-------	---------------	-------------	--------------

学習目標	工業の各分野に共通に必要な基礎的な態度、技能、知識などを実験・実習を通して、体験的に学習する。さらに、知的財産権等についても学ばせる。
------	---

学期	学習内容	学習のねらい
1	オリエンテーション 工業技術基礎の概要と安全教育 知的財産権の概要について 手仕上げの方法 1 けがき、切断、ヤスリがけ、折まげ 2 穴あけ、ねじ切り 3 メモホルダーの製作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故防止に努めながら安全に作業する心構えを身に付ける。</li> <li>・知的財産制度、産業財産権の概要と意義や重要性を理解する。</li> <li>・手仕上げ作業の基礎知識を身に付け、手仕上げの基本操作を習得する。</li> </ul>
2	旋盤の扱いかた 1 基本操作の習得 2 基本切削練習 3 段付加工 溶接の方法 1 被覆アーク溶接作業 試験・計測 1 材料試験 2 ノギス・マイクロメータによる測定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旋盤作業の基礎知識を身に付け、旋盤の基本操作を習得する。</li> <li>・アーク溶接作業の基礎知識を身に付け、溶接の基本操作を習得する。</li> <li>・金属材料の強さと延性の関係について理解する。</li> <li>・測定機器の原理・構造・使い方を習得する。</li> </ul>
3	測量について学ぼう 1 測量の基礎知識 2 昇降式水準測量 材料について学ぼう 1 材料の基礎知識 2 セメントの強さ試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標高や2点間の高低差を求めるための器具の名称や器械の取り扱い、計算方法を身に付ける。</li> <li>・コンクリート材料やその性質について理解する。</li> <li>・セメントの性質・強さについて理解する。</li> </ul>

評価の観点	内 容
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度（作業、服装、聞く、ノート等）をまじめに取り組んでいるか。</li> <li>・学習活動（出席の状況や質問、返答等）を積極的に行っているか。</li> <li>・工業技術基礎に関心をもち、安全に気をつけ意欲的な作業態度であるか。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な作業手順を考えることができるか。</li> <li>・作業内容の善し悪しを総合的に判断できるか。</li> <li>・はっきりとした声で自分の考えが表現できているか。</li> </ul>
技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業の手順を守り、技術・技能の向上が図られているか。</li> <li>・安全作業に心がけているか。</li> </ul>
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業に対する基礎的な知識を身に付けているか。</li> <li>・作業内容を理解し、的確な作業ができているか。</li> </ul>
評価方法	学習の状況は、上記の四つの観点で評価します。 「提出物（レポート等）」等による評価も行います。 各学期の成績は以上の観点から評価し100点法で行います。 学年末の成績は各学期の成績を総合的に判断し5段階評定で行います。

学習に対するアドバイスと留意事項

- 安全に作業するには、「きまり」を守り、作業に適した正しい服装(実習服)を着用してください。
- 作業をするにあたっては、気持ちを集中させ、真剣に取り組んでください。
- 教科書、電卓、レポート用紙、筆記用具等を持参してください。
- 報告書（レポート）はその日の内に書くようにし、提出日を守りましょう。

機械土木工学「情報技術基礎」

単位数	2	学科・学年	機械土木工学科 1年	教科書 副教材等	情報技術基礎 新訂版(実教出版)
-----	---	-------	---------------	-------------	------------------

学習目標	社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させるとともに、情報技術に関する基礎的な知識と技術を習得させ、情報及び情報手段を活用する能力と態度を育てる。
------	--

学期	学習内容	学習のねらい
1	1 産業社会と情報技術	・情報やデータの意味、情報化社会の利点や問題点について理解させる。
	2 コンピュータの基本操作とソフトウェア	・ソフトウェアの分類とオペレーティングシステムの目的及び基本操作について理解させる。
	3 ハードウェア	・コンピュータの構成、処理装置の動作について理解させる。
2	4 プログラミングの基礎	・問題解決の手段としてのアルゴリズムやプログラムの作成の意味を理解させる。
	5 C言語によるプログラミング	・C言語の特徴を理解し、簡単なプログラムを作成させる。
3	6 コンピュータネットワーク	・身近なコンピュータネットワークについて理解させる。
	7 コンピュータ制御	・コンピュータ制御の考え方について理解させる。
	8 情報技術の活用	・マルチメディアの概要と情報のデジタル化などについて理解させる。

評価の観点	内容
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報化社会を構築する技術について関心を持っているか。</li> <li>・情報活用能力の向上に意欲的に取り組んでいるか。</li> <li>・情報技術を実際に役立てようとしているか。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報技術の活用法を適切に判断できるか。</li> <li>・情報技術に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、創意工夫する能力を身に付けているか。</li> <li>・学習成果を的確にわかりやすく表現できるか。</li> </ul>
技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報及び情報手段を適切に活用する技術を身に付けているか。</li> <li>・実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理することができるか。</li> </ul>
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解しているか。</li> <li>・情報技術に関する基礎的な知識を確実に身に付けているか。</li> </ul>
評価方法	<p>学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の四つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取組」、「小テスト」、「提出物（ノート）」、「定期考査」、「情報技術検定試験」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績を総合的に判断し、5段階法でも評定をします。</p>

学習に対するアドバイスと留意事項

- 先生の話をよく聞き、分からないところがあれば積極的に質問する。
- 板書したことを丁寧にノートに写してください。
- 定期考査前には、ノートをよく見て勉強すると良い結果につながります。
- 「3級情報技術検定試験標準問題集」を常に用意しておいてください。

機械土木工学科「機械設計」

単位数	2	学科・学年	機械土木工学科 1年	教科書 副教材等	機械設計1 (実教出版)
-----	---	-------	---------------	-------------	--------------

学習目標	機械設計に必要な基本的内容を理解し、力、力の合成、運動、仕事、動力、機械、摩擦等を求める能力を養う。また、機械装置を合理的、創造的に設計する能力や態度を育成する。
------	---

学期	学習内容	学習のねらい
1	第1章 機械と設計 1 機械のなりたち 2 機械の設計 計算の基礎 1 四則計算 2 関数計算 3 実務計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械の定義と機械要素のあらましを理解する。</li> <li>・機械設計にあたっての考慮すべき要点を理解する。</li> <li>・機械設計に欠かせない計算について、計算機を用いた基本的な計算方法について理解する。</li> </ul>
2	第2章 機械に働く力と仕事 1 力 (1) 力の合成と分解 (2) 力のモーメントと偶力 (3) 力のつり合い 2 運動 (1) 運動 (2) 円運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平行四辺形や計算による力の合成・分解ができるようになる。</li> <li>・<math>M = F \times r</math>の式を経験を通して理解する。</li> <li>・力のつり合いの条件を理解する。</li> <li>・重心の意味を理解する。</li> <li>・変位、速度、加速度、重力及び運動の3法則について理解する。</li> <li>・周速度と角速度、回転速度の関係を理解する。</li> </ul>
3	(3) 運動量と力積 3 仕事と動力 (1) 仕事 (2) 道具や機械の仕事 (3) エネルギーと動力 4 摩擦と機械の効率 (1) 摩擦 (2) 機械の効率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事の定義を理解する。</li> <li>・動力は単位時間あたりの仕事であることを理解する。</li> <li>・摩擦は常に運動を妨げる方向に作用し、垂直力に比例することを理解する。</li> </ul>

評価の観点	内 容
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械設計について興味・関心を持ち、疑問点は積極的に質問するなど意欲的な学習活動を行っている。</li> <li>・ノートの整理が十分にできていて熱心な学習態度で授業に臨んでいる。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問点は自主的に質問をするなどして問題解決に努めている。</li> <li>・既習の内容を十分理解し、応用問題の解決ができる。</li> <li>・グラフや図表などの各種資料を適切に活用し、表現することができる。</li> </ul>
技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例題や問題を理解し、適切に解くことができる。</li> <li>・ノートに各種計算問題における途中の計算過程を分かりやすく表現し、きれいにまとめている。</li> </ul>
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の定着状況が良好で問題解決能力がある。</li> <li>・小テストや課題の達成度が良好である。</li> <li>・身の回りにおける力学的事象を理解し、基礎的な計算ができる。</li> </ul>
評価方法	学習の状況は、上記の四つの観点で評価します。 「小テスト」や「提出物(ノート等)」、「定期考査」等による評価も行います。 各学期の成績は以上の観点から評価し100点法で行います。 学年末の成績は各学期の成績を総合的に判断し5段階評定で行います。

学習に対するアドバイスと留意事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業は板書を中心に行います。板書しなかったことも意欲的にノートにとってください。</li> <li>○ 演習や資料等のプリントはノートに張り付けてください。</li> <li>○ 先生の話をよく聞き、分からないところがあれば積極的に質問してください。</li> <li>○ 毎日の勉強が大切です。家に帰ったら習ったところを復習しましょう。</li> </ul>

機械土木工学科「測量」

単位数	2	学科・学年	機械土木工学科 1年	教科書 副教材等	測量（実教出版）
-----	---	-------	---------------	-------------	----------

学習目標	水準測量によりある地点の高さが求められることを理解させる。 角測量、トラバース測量によりある地点の座標位置が求められることを理解させる。
------	---

学期	学習内容	学習のねらい
1	測量を学ぶにあたって 第1章 距離測量 1 距離測量用器具 2 距離の測定 3 測距器械による距離の測定  第5章 水準測量 1 水準測量の用語 2 水準測量の器械、器具 3 水準測量の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・測量の分類や方法、使用器械・器具を知る。</li> <li>・巻尺の種類や使い方を学習する。</li> <li>・光波測距儀、GPS、VLBIについて理解する。</li> <li>・水準測量に使う用語やレベルについて理解する。</li> </ul>
2	第2章 角測量 1 角測量と測角器械 2 測角器械の構造 3 すえつけと視準 4 角度の観測	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高さを求める方法について理解する。</li> <li>・角度を求める方法や測角器械について理解する。</li> </ul>
3	第3章 トラバース測量 1 概要と種類 2 水平角、距離、方位角の測定 3 トラバースの計算方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座標位置を求めるための測定や計算方法について理解する。</li> </ul>

評価の観点	内容
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動に積極的に参加しているか。</li> <li>・測量に関心をもち、意欲的に学習しているか。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各測量の方法を十分理解しているか。</li> <li>・実際の現場でどの器械をどのように活用したらよいかを判断できるか。</li> </ul>
技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・測量の計画、調査、踏査・選点、骨組測量、細部測量、計算・整理、平面図作成の作業が正確・迅速・丁寧に行えるか。</li> </ul>
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・測量器械、器具の取り扱いを理解しているか。</li> <li>・測量の計画から平面図作成までの作業手順を理解しているか。</li> </ul>
評価方法	学習の状況は、上記の四つの観点で評価します。具体的には、出席、授業態度と取組、小テスト、ノートやプリントなどの提出物、定期考査により評価します。また、学年の成績は上記の観点から評価した各学期の成績の相加平均とし、5段階法でも評定を行います。

学習に対するアドバイスと留意事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業は、必要に応じ板書します。板書しなかったことも意欲的に、ノートにとってください。</li> <li>○ 先生の話をよく聞き、分からないことは積極的に質問してください。</li> <li>○ 計算機は毎時間使用します。使い方をしっかりと理解しておきましょう。</li> <li>○ 定期考査前には、授業で解いた問題をもう一度解くとよい結果につながります。</li> </ul>

機械土木工学「工業探究」

単位数	1	学科・学年	機械土木工学科 1年	教科書 副教材等	自作テキスト
-----	---	-------	---------------	-------------	--------

学習目標	工業に関する企業や設備等の見学、卒業生や職業人等との対話、発表や討論等を通して、工業に関する職業の種類や特徴、社会生活や職業生活について理解するとともに、勤労の意義について考察し、職業人として必要な能力・態度、望ましい勤労観・職業観を育成する。
------	--

学期	学習内容	学習のねらい
1	職業理解 1 職業と生活 (1) 職業を知る  (2) 各種企業や施設等の見学	<ul style="list-style-type: none"> <li>工業の職業、職種を調査し、様々な職業への視野と興味を持つ。</li> <li>工業の職業と資格・免許の関係について考える。</li> <li>職場見学の計画書を作成する。</li> <li>県内企業の職場を見学する。</li> <li>職場見学日誌を記入する。</li> <li>職場見学レポートを作成する。</li> </ul>
2	職業観・勤労観 2 職業人の資質 (1) 職業を調べる (2) 職業人リレー講演 (3) 各種企業や施設等の見学	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の産業や職業の変化を調べる。</li> <li>職業選択の条件と職業観について考える。</li> <li>「働きがい」と勤労観について考える。</li> <li>卒業生や職業人等の講話を聞き、職業生活の在り方と生き方について考える。</li> <li>県内企業の職場を見学する。</li> <li>職場見学日誌を記入する。</li> <li>職場見学レポートを作成する。</li> </ul>
3	(4) 職場見学報告会 進路と自己実現 3 進路設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>各班ごとに発表資料を準備し発表する。</li> <li>職業人としての資質・能力を踏まえ、自己の将来の生き方や進路について考える。</li> </ul>
評価の観点		内 容
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に授業・見学・講話に取り組んでいる。</li> <li>職場見学や講義などの意欲的に取り組み、情報を集める・まとめる・発表する態度を身に付けている。</li> </ul>	
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ学習による調査・研究活動や、それに基づく発表や討論といった課題解決的な学習活動に取り組み、自分から進んで、自分のこととして学習する。</li> </ul>	
技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に対して、自分の考えや、学んだことをまとめる。</li> <li>自分のキャリアプランを持っている。</li> </ul>	
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業と資格・免許の関係について理解している。</li> <li>自分の進路希望と進路適性を理解している。</li> </ul>	
評価方法	学習の状況は「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。考査による評価は行わず、提出物と活動への取組に対する意欲・態度を総合して評価します。また、学年の成績は上記の観点から評価した成績とし、100点満点（五段階評価）で行います。	

学習に対するアドバイスと留意事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 職場見学では担当者の指示を守り、安全でスムーズな見学が行えるように心がけてください。</li> <li>○ 積極的に授業・見学・講話に取り組み、メモを取り自分の考えをまとめてください。</li> <li>○ 「工業探究」テキストは授業の最後に提出することになります。記入した内容は評価の一つになります。きちんと丁寧にしっかり記入してください。</li> </ul>